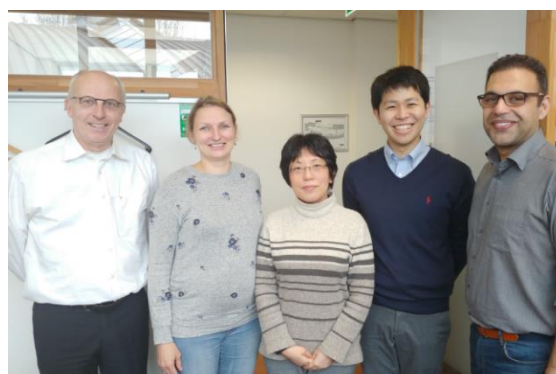
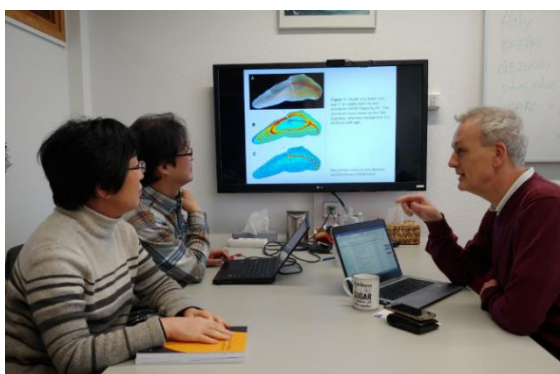


ワーゲニンゲン滞在による共同研究打ち合わせと実施

平成 31 年 3 月 8 日より、戸田雅子教授（食品化学分野）、伊藤隼哉助教（機能分子解析学分野）、原田昌彦准教授（分子生物学分野）がオランダ・ワーゲニンゲンに 7 日間滞在し、ワーゲニンゲン大学を訪問して共同研究打ち合わせと、共同研究実施を行いました。



原田は、魚類免疫機構のエピジェネティック制御について、一昨年より Prof. Wiegertjes と共同研究を実施しており、今回は戸田、伊藤も交えて研究の進捗や今後の実験計画などについて打ち合わせを行いました。さらに、コイの培養細胞の実験条件の検討実験を行ったことで、普段のメールのやり取りだけでは期待できないような共同研究の進捗が得られました。戸田、伊藤は、今回が初めてのワーゲニンゲン大学訪問でしたが、Prof. Wiegertjes のアレンジによって、Prof. Savelkoul や Dr. Teodorowicz などと、食物アレルギーと免疫やそれらの研究遂行に伴う成分分析に関する今後の共同研究に関する打ち合わせを行い、特に、メイラード産物によるアレルギー反応の誘発に関する研究について認識を深めることができました。このような打ち合わせに加えて、東北大学青葉山新キャンパスの農学研究科研究棟に近接して建設が開始された次世代放射光施設について原田が説明を行ったところ、Prof. Wiegertjes をはじめとするワーゲニンゲン大学関係者が大きな関心を示し、次世代放射光施設も活用した今後の共同研究体制の強化についても、具体的な検討や打ち合わせを行っていくこととなりました。また、ワーゲニンゲン滞在中に、食と農免疫国際教育研究センターのサポートを得て、ドイツ・フランクフルトを日帰りで行き、ドイツ連邦保健省ポール・エーリッヒ研究所において将来的な共同研究体制構築に向けての打ち合わせを行いました。特に Dr. Stephan Scheuer らとの討論により、免疫細胞のメタボロームに関する研究については、すぐにも共同研究を開始するという成果がありました。このような実り多い滞在をサポートいただいた JSPS 研究拠点形成事業に感謝いたします。

戸田雅子、伊藤隼哉、原田昌彦（東北大学大学院農学研究科、食と農免疫国際教育研究センター）

